平成30年度　吉野ヶ里町立東脊振小学校　学校評価計画

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
「豊かな心をもち　個性に富み　逞しく生きる」児童の育成 ～自分が大好き、友だちが大好き、学校・地域が大好きな 東脊振の子～	①　自分つくりの推進（児童理解・支援の推進） ②　学びつくりの推進（道徳授業の推進と学力向上） ③　仲間つくりの推進（豊かな体験活動の推進）

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①特色ある学校づくりの推進

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
学校運営	○学校経営方針	本年度の重点目標の周知	・学校目標を知っていると答える教職員、児童、保護者90%以上にする。 ・メール登録を100%にする。 ・学級懇談会参加率40%以上にする。	・学校便り、PTA総会、学級懇談、学校ホームページ、まちCOMIメール等で機会あるごとに周知していく。 ・学級懇談会の前に、まちCOMメールで参加を呼びかける。	福井
	○校内研究の推進	・校内研究（道徳）の推進	・校内研究のテーマの下に、職員全員が主体的に研究に励む。 ・学年部と専門部に分かれて、担当の研究を責任をもって果たそうとする。 ・道徳の年間計画、別葉を書き直す。 ・道徳科の評価の文例を作る。	・年度当初に、研究の指針を明らかにし、率先して道徳科の授業にチャレンジする。 ・学年部での授業検討、専門部での研究をする時間を確保する。 ・掲示物や道徳ノートの提案などをこまめに行う。 ・先進校を視察したり、講師を招聘したりして研究を深める。	山内
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・業務改善と衛生管理の改善、充実	・仕事にやりがいを感じている」と答える職員を90%以上にする。 ・定時退勤日の徹底と学校施錠19:00の日を90%にする。	・会議の時間縮減や内容を改善し、学級事務へ費やす時間を確保する。 ・業務記録管理ソフトで、勤務時間を把握し、声かけやチーム東脊振として支援する。	福井

②自分つくりの推進（児童理解・支援の推進）

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
学校運営	○生徒指導の充実	予防的・開発的な生徒指導の推進	・「よさを見抜き、認め、伸ばす」支持的風土のある学級、学年経営を基盤にし、自分のよさに気付かせ、自己肯定感を高めていく。	・教育相談的指導による問題行動や不適応への予防をする。 ・全職員による情報共有を行い、チームによる即時指導を徹底して行う。 ・児童理解の会等で、児童理解に努め、指導体制を整える。 ・予防開発的な部分については、指導例や活動例を示す。	自分つくり
教育活動	●いじめの問題への対応	早期発見、早期対応体制の充実	・本校の学校いじめ基本方針を、いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルも含めて充実させ、対応の迅速化を行う。	・いじめの認知・覚知に対する教員意識を変えるため研修を行う。 ・毎月アンケートを実施し、早期発見ができる体制を作る。アンケート結果による学校や学級への不適応行動について、職員間の共通理解を図る。 ・開発的生徒指導により、自己肯定感を高め、良好な人間関係を形成していく。	自分つくり
	●心の教育	・あいさつの励行 ・相手を思いやった言葉遣い	・「あいさつがよくできた」と言える児童を70パーセント以上にする。 （H29 「4」評価は、54．4 %） ・「～さんづけ」や「正しい言葉遣いができた」と言える児童をそれぞれ60パーセント以上にする。　（H29 「4」評価は、40．3%）	・毎月の生活朝会で話題にする。 ・児童会であいさつ運動に取り組み、意識を高める。 ・学習の場において正しい言葉遣いを身に付けさせ、普段の生活の場でも活かすようにする。 ・学校の取り組みを保護者に周知し、家庭と連携した取り組みを推進する。	自分つくり

③学びつくりの推進（道徳授業の推進と学力向上）

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	学力向上につながるICT利活用の研究	・アンケート調査を実施し、ICT利活用により学習意欲が高まったという児童の割合を90%以上にする。	・教員同士で教材の開発を協力・共同で行い、常に改善できるような素地を作る。 ・道徳の時間にもICTを取り入れる。	学びつくり
	●学力の向上	指導方法の改善	・教員の指導力を高め、「自分の学習に自信がある」と言える児童の割合を80%以上にする。	・「東脊振授業」の徹底。 ・学習指導において、学び合う活動の時間を積極的に取り入れる。 ・中学校と連携した「家庭学習がんばろう週間」の実施。	学びつくり
	○読書の定着	読書活動の推奨と積極的な図書館活用	・図書貸し出しの目標冊数を設定し、読書を奨励する。 （1年…150冊、2、3年…120冊、4年…80冊、5，6年…70冊） ・学年ごとの「お勧めの本20冊」を選定し、勧める。	・「図書館だより」を発行し、保護者にも関心を持ってもらえるようにする。 ・図書館まつりを年に3回実施し、貸し出しを勧める。。 ・目標冊数を達成した児童名を掲示する。 ・読書の幅が広がるようことを目指して20冊を選定し、多くの児童が読むようカードを工夫したり、コーナーを整えたりする。	学びつくり

④仲間つくりの推進（豊かな体験活動の推進）

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	
教育活動	●健康・体つくり	運動機会の確保と規則正しい生活習慣の確立	・業間や昼休みにおいて、「元気に体を動かした」と言える児童の割合を90%以上にする。 ・「早寝」「早起き」の児童の定着率を85%以上にする。 ・児童の「朝食喫食率」は98%以上にする。	・外で遊ぶように休み時間に声をかけたり、体育委員会で学校みんなで遊ぶ日を設定する。 ・お便りによる家庭への啓発をする。	仲間つくり
	○家庭、地域との連携	地域と自分との関わり 郷土愛	・「東脊振のよさを「低学年1つ以上、中学年3つ以上、高学年5つ以上」言える児童を90%以上にする。 ・クリーン作戦など地域の行事に、年2回以上参加する児童を90%以上にする。	・生活科や社会科、総合学習に地域素材を導入する。 ・学びの中で、人と自然にかかわる場面を設定する。 ・道徳との関連を常に考慮して指導する。 ・地域人材の活用 ・まちCOMメールで、地域行事参加を呼びかける。	仲間つくり
	○集会や縦割り班活動の充実	所属感や連帯感、互いを思いやる心の育成	アンケートを実施し，「学校が楽しい」，「思いやりや友だちを大切にしている」といえる児童の割合を90%以上にする。	・集会活動を通して達成感や連帯感を味わうことができるように，児童が企画・運営に携わる機会を増やしていく。 ・様々な縦割り活動の機会を捉え，全職員で声かけを行うことで，所属感を高めたり，互いを思いやる心の育成につなげたりする。	仲間つくり

⑤小中連携の推進

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
教育活動	○小中連携	子供の活動づくり	・児童生徒会本部を中心として、小中合同の行事を充実させ、仲間意識の向上を図る。	・児童会、生徒会の交流を行う。（あいさつ運動、募金） ・中学校文化祭への参加（6年） ・除草作業を共同実施する。	仲間つくり
		9年間を見通した教育活動の展開	・小中の授業参観を年3回は行なう。 ・教職員の交流を活性化させ、指導体制の連続性を図る。	・授業研究会等、各種研修会を合同で実施する。 ・生徒指導の決まり、学習の決まりの連続性を図る。 ・小中連携推進委員会を毎月開催する。	教務

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目